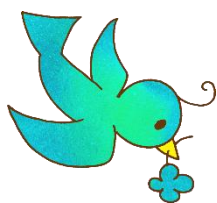


令和5年度 公私幼保合同研修まとめ



令和5年度 公私幼保合同研修 実施一覧			
研修名		回数	掲載ページ
人権保育研修会		3	P1
資質向上研修会		4	P2～3
教育・保育理論研修会		6	P4～5
子どもの健康研修会		5	P6～7
安全・危機管理研修会		4	P8～9
保幼小連携・接続研修会		4	P10～11
子育て支援研修会		3	P12
マネジメント研修会		4	P13～14
特別支援教育・保育研修会		5	P15～16
就学前教育カリキュラム研修会		4	P17
タイムリー研修会		5	P18～19
施設長研修会		3	P20
主任研修会		2	P21
看護職・養護教諭研修会		2	P22
地域型保育事業研修会		3	P23
認可外保育施設研修会		4	P24～25
	※対象者について I期 採用・初任期(1～5年程度) II期 中堅発展期(6～14程度) Ⅲ期 中堅深化期(15～24年程度) Ⅳ期 キャリア成熟期(25年以上)	計 60回	

第1回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

「子どもの最善の利益」の実現に向けて ～誰一人として虐待の被害者・加害者にならないために～

日 時：令和5年6月15日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪大谷大学 教授 井上 寿美

内 容：コロナ禍における子どもの権利侵害の状況、社会的養護のもとで育つ子どもの状況の現状について知る。コロナ禍で休園、休校があったため、家庭という私的な空間に隠れて、虐待が発見されにくい状況があった。虐待が子どもに及ぼす様々な影響について知り、虐待を受けた子どもに関わるための基本姿勢について事例を通して学んだ。

第2回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

子どもを尊敬する関わりからはじめる仲間作り

日 時：令和5年10月20日（金）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：常磐会短期大学 非常勤講師 保田 維久子

内 容：子どもの人権を守り尊重すること、そして、日々の保育の中で子どもと大人が尊敬しあう関係の大切さについて学んだ。それは実際の保育の場面で子どもの発達について理解し、質の高い保育内容を進めていくときの重要な視点となる。人権保育の基本的な考え方から、人権保育とは特別な保育ではなく保育そのものである、ということ学んだ。

第3回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

多文化共生教育の現状と課題 ー習慣・ことば・人権の観点からー

日 時：令和6年1月18日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：鈴鹿大学短期大学部 学長・教授 長澤 貴

内 容：自園所における「外国につながるこども」についてグループで意見交流する。「外国につながるこども」の現状について、資料をもとに多くの情報を知り、「子どもの権利条約」の趣旨に基づいて、どのような課題があるのかを考えた。グループワークの中で今まで行ってきたサポートについて情報交換し、サポートの影響や効果について、講師の調査・研究での結果をもとに考え、支援方法について学んだ。

第1回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

子ども理解の視点を職員間で共通理解していくための園内研修の進め方

日 時：令和5年6月12日（月）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪総合保育大学 教授 瀧川 光治

内 容：グループワークを通して対話型園内研修「対話による気づきを意識した園内研修」について学んだ。KPT法、Keep(大事にし続けたいこと)Problem(課題は何か)Try(今後の取組)の考え方を知り、自園所の保育、行事等の振り返りに生かし、「目指す方向性」「価値観」を共有していくことの大切さについても学んだ。

第2回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

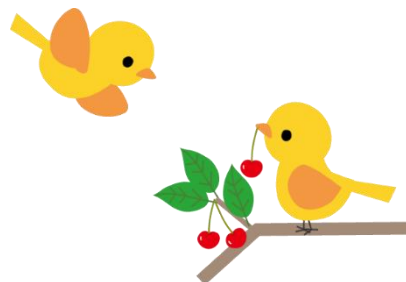
子ども理解から始まる保育の創造 ～主体的な生活と楽しいあそびに向けて～

日 時：令和5年7月6日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪大谷大学 教授 長瀬 美子

内 容：実際の保育の画像等を参考にしながら「子どもの欲求・意思を大切にした生活づくり」において、0歳児から5歳児の発達の筋道・特性について学んだ。また具体的な場面の例から、発達特性を理解して関わるための援助について学んだ。



第3回

遊びの中でこどもは育つ

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

日 時：令和5年9月13日（水）14:30～17:00
会 場：オンライン研修（ライブ配信）
講 師：玉川大学 教授 田澤 里喜

内 容：「遊び」の大切さについて、自園所の具体的な事例を交え、遊びこむ経験や仲間との協同的な活動が、子どもの思考を促し意欲を育み「学びに向かう力」として、生涯にわたって社会生活を営むうえで基盤となることについて学んだ。受容的・応答的（対話的）な関わりの重要性、遊びの中の学びと育ちが豊かになる環境の工夫や保育者が子どもと一緒に面白がり、保育を楽しいものにしていく大切さについて学んだ。

第4回

子ども理解から始まる保育

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

日 時：令和5年11月13日（月）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：常磐会短期大学 教授 卜田 真一郎

内 容：「安心できる居場所づくり」「気になる子の姿を捉えてコミュニティ作りをする」「子どもの姿から目指す集団を考える」等、子どもを理解するための大事な視点と集団づくりについて学んだ。活動を展開する中で、具体的な保育者の関わりを丁寧に考えていくプロセスについて「気になる子ども」の子ども理解からねらいを設定し、グループワークを通して分析について学んだ。



第1回

ICTを活用した保育・幼児教育実践の工夫

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

日 時：令和5年6月9日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪キリスト教短期大学 学長 山本 淳子
特任准教授 産官学連携推進センター長補佐 原山 青士

内 容：ICTの現在の教育の流れや方向性について、業務のICT化による負担軽減としてどのようなことが望まれるかを考え、ChatGPTを活用することで、保育活動のヒントを得られることを学んだ。デジタル顕微鏡を使用し、子どもの体験を豊かにするための、ICTを活用した新しい取組方法などを学んだ。

第2回

子どもの資質能力を育てる保育を考える ～ICTを活用しながら～

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

日 時：令和5年8月9日（水）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：兵庫教育大学 准教授 鈴木 正敏

内 容：子どもたちに何が必要か、自園所で取り入れられるものとして「情報を集める」「情報をまとめる」「情報を共有する」「自分たちの姿を振り返る」「プログラミング的思考を身に付ける」など、ICTを取り入れた実践園のスライドを見ながら、子どもの主体的な活動について学んだ。

第3回

保育実践に生かす記録とは

対象者：Ⅰ期

日 時：令和5年10月13日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪教育大学 教授 中橋 美穂

内 容：乳幼児期の教育及び保育より、保育記録の大切さ、子どもを一人ひとり理解することの意味について学んだ。グループワークでは記録様式の事例から意見を共有し、保育に活用するための園内研修についても学んだ。

第4回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

乳幼児から幼児期へつなぐ保育と環境

日時：令和5年11月10日（金）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪総合保育大学 准教授 高根 栄美

内容：就学前施設でおこなう乳幼児教育・保育について、保育者が保育においておこなうこと等「保育」について学ぶ。また、学びにつながる遊びについて、遊びの種類や環境構成について、乳児期の育ちを通して学んだ。

第5回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

有効な指導計画の作成と実践

日時：令和5年12月19日（金）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：香川大学 准教授 松井 剛太

内容：指導計画の考え方として、まずは子ども理解が重要。また、どのように理解するかについて、事例を通してグループワークの中で学びを共有する。指導計画の運用の仕方と、記録・評価の関連についても学んだ。

第6回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

乳児保育に求められるもの～発達理解と個々の思いにそった援助～

日時：令和6年1月23日（火）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪大谷大学 教授 長瀬 美子

内容：乳児期は発達の著しい時期であることをふまえ、各年齢の発達特性について理解を深め具体的な事例を通して援助について学んだ。また、子どもにとっての遊びについて考え、遊びにおける「思いにそった援助」について学んだ。

第1回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

乳幼児期の食物アレルギーについて ～いかに事故を予防し、緊急時に対処すべきか～

日時：令和5年5月29日（月）14:00～16:30

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター
小児科 主任部長 亀田 誠

内容：食物アレルギーによるアナフィラキシー・アナフィラキシーショックについて学び、組織的にアレルギー疾患に対応する。医師の診断指示に基づき、保護者と連携し、適切に対応することを学んだ。エピペンの使用指導もあり、緊急時の対応について保育者間でシュミレーションを定期的を実施することの意識が高まった。

第2回

対象者：就学前施設教職員

学校等欠席者・感染症情報システム(旧保育園サーベイランス)の初期操作

日時：令和5年6月8日（木）14:30～17:30

会場：大阪産業創造館

講師：大阪市こども青少年局 幼保施策部 幼保企画課 担当係長 松林 裕美

内容：保育園所・認定こども園での感染症対策の1つとして、「学校等欠席者・感染症情報システム」の必要性、記録・連携・早期探知を同時に行えるという利便性を学び、参加者一人ひとりがパソコンを使い、入力の仕方やメールの送り方等を演習する。

第3回

対象者：就学前施設教職員

熱性けいれん・てんかんの正しい知識と救急対応をまなぶ

日時：令和5年9月21日（木）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市立総合医療センター 小児科神経内科医長 九鬼 一郎

内容：熱性けいれんは、日本においては、よくみられる(約10人に1人)体質である。てんかん発作は全般発作と焦点発作に分けられ、てんかんは、6～7割が治癒する。発作が出たときは、現場での観察が治療に直結する。発作のほとんどが5分以内に自然に止まり、発作で命を落とすことは極めてまれである。よく知ることが、不安の軽減、適切な対応につながるということを学んだ。

第4回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

就学前施設における感染対策

日時：令和5年10月23日（月）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究官 菅原 民枝

内容：新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後の感染状況、課題について最新の情報を学んだ。サーベイランスを活用することで、園所での感染拡大防止に役立てる方法を学んだ。

第5回

対象者：就学前施設教職員

学校等欠席者・感染症情報システム(旧保育園サーベイランス)のフォローアップ研修 ～活用方法について～

日時：令和5年12月4日（月）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究官 菅原 民枝

内容：サーベイランスは日々入力するだけではなく、そこから得られる多くの情報を活用することで自園所の健康管理に役立てる。周辺地域の感染状況、月報の作成、保護者向けの情報提供に使える掲示物の作成にも活用可能。そのことから、今回は自園所のパソコンを使用して実際に機器操作しながら、具体的なサーベイランスの活用方法について学んだ。



第1回

対象者：就学前施設教職員

救命救急～救命講習～

日時：令和5年6月7日（水）14:30～17:00
令和5年6月8日（木）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター
講師：一般財団法人大阪消防振興協会

内容：家庭の救急ノートテキストに、一次救命処置とファーストエイドの手順、心肺蘇生法（CPR）とAEDについて学んだ。救命救急では、乳児を1歳未満、小児を1歳～15歳未満と捉える。心肺蘇生の手順は乳児と小児の違いがあるなど、実際にAEDを体験する。止血ややけどのファーストエイドや気道異物の除去を、座学、映像、実技を通して学んだ。

第2回

対象者：就学前施設教職員

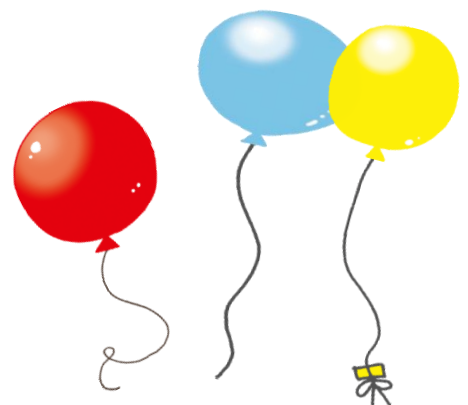
食中毒の予防について

日時：令和5年6月22日（木）15:00～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市保健所東部生活衛生監視事務所 食品衛生監視員 細倉 宏之

内容：集団給食施設で起きやすい食中毒カンピロバクター・ノロウイルス・ウェルシュ菌・黄色ブドウ球菌・化学物質（ヒスタミン）についての、症状や治療や予防を学んだ。調乳についての衛生管理、サカザキ菌やサルモネラ菌の汚染の防ぎ方、HACCPに沿った衛生管理（チームをつくる・見える化する等）を学んだ。



第3回

対象者：就学前施設教職員

施設内のリスクマネジメント

日時：令和5年8月22日（火）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪大谷大学 教授 地下 まゆみ

内容：保育現場のリスクマネジメントについて、価値とリスクの天秤のバランスを取り続けていくこと、社会全体の状況によって変わるものであることを学んだ。全身に関わるケガは、個々によって結果が違ふこと、指さし声出し確認は効果的であることを学び、グループ討議では ①ヒヤリハット ②「はさむ」「落ちる」について危険を予防するため、どうすればいいか話し合い共有した。

第4回

対象者：就学前施設教職員

子どものケガと安全管理

日時：令和5年10月16日（月）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪大学大学院 特任研究員
大阪総合保育大学 非常勤講師 岡 真裕美

内容：事故の実例をもとに、事故発生のメカニズムについて学んだ。チャイルドビジョンを体験し、子どもの特性について知る。保育現場の事故事例やバス送迎の安全について原因と予防策を探り、ヒヤリハットの共有とコミュニケーションの重要性について学んだ。



第1回

対象者：就学前施設教職員
小学校・市内支援学校の教職員

生活科でつなぐ幼児教育と小学校教育 ～生活科の実践から考える～

日 時：令和5年7月24日（月）15:00～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪市立菅北小学校 教諭 竹上 由希子

内 容：小学校の生活科の授業内容を知り、生活科の実践から保幼小の連携と接続につながるポイントについて、グループワークを実施。保育所での豊富な遊びの経験は全ての活動につながる。幼児期の子どもが理屈立てて理解できなくても、感覚や経験を大事にすることが、就学後の学びにつながることを確認し合った。

第2回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期
小学校・市内支援学校の教職員

保幼小連携・接続のために大切にしたいことと取り組み

日 時：令和5年9月4日（月）15:00～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：奈良教育大学 教授 学長補佐 廣瀬 聡弥

内 容：保幼小接続の目的と意義について学んだ。架け橋プログラムの進め方では、行動としての教育と制度としての教育や、就学前施設と小学校の学びの方法の相違についても学び、グループワークを通して各園所校の現状を共有した。



第3回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

小学校・市内支援学校の教職員

保幼小連携・接続 ～ 心の育ちについて語り合おう ～

日時：令和5年11月2日（木）15:00～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：京都大学大学院 教授 大倉 得史

内容：子どもの生きる世界や、子どもの心のありよう、「心の育ち」に目を向け、一緒に想像することは、深い洞察やエピソード記述のあり方につながる。グループワークで、エピソード事例をもとに「心の育ち」に関して模擬エピソード検討会を体験した。具体的なエピソード事例から一定の共通した理解をもつことの大事さを学んだ。

第4回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

小学校・市内支援学校の教職員

遊びや生活の基盤をつくる連携・接続について ～ 架け橋期の教育の充実を考えよう～

日時：令和6年1月30日（火）15:00～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪総合保育大学 特任教授 神長 美津子

内容：「架け橋期の教育」の充実の必要性和期待されることについて、中央教育審議会「架け橋特別委員会」での内容から「架け橋期の教育」の進め方について学び、グループワークでは「架け橋期の教育の充実」のために必要なことについて、現場の状況を含め話し合い共有した。



子育て支援研修会

第1回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

“気になる子”の気になる保護者 ～子どもの育ちをともに支えるために、保育者にできるサポート～

日時：令和5年7月21日（金）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：こども教育宝仙大学 教授 守 巧

内容：保育者にとって気になる子どもについて、様々な視点から気になる行動の要因や、「気になる保護者」は「関わりに工夫が必要な保護者」であることを学んだ。しっかり者として捉えられがちな過剰適応児の増加もみられ、子どもの発達障がいを受容にむけての対応も、十分な信頼関係を築きながらすすめていく必要性を学んだ。

第2回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

子どもと保護者に寄り添う相談援助 ～子どもの育ちを共に喜び合うために、多様な保護者の状況を理解する～

日時：令和5年10月11日（水）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：仁愛大学 准教授 青井 夕貴

内容：相談援助のはじまりは「なんとかしようとする事」そして「そのために技術を活用すること」であり、子どもや保護者の状況を、アセスメントの視点から理解を深め、対人援助の専門性を支える基盤についての知識と技術を学んだ。

第3回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

保護者を園所全体で支える ～保護者の状況に応じた関係機関と連携、園所内の情報共有～

日時：令和5年12月11日（月）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：武庫川女子大学 教授 鶴 宏史

内容：法的な根拠より、就学前施設での子育て支援の必要性について、子育て支援の基本的な視点、①子どもの最善の利益の尊重、②保護者とのパートナーシップを大事にした家庭との連携、③保護者・地域の子育て力の向上、そして、そのための子育て支援における基本的態度（バイステックの7原則）を学んだ。グループワークの中で事例を通して考え、意見交換を行い学びを深めた。

第1回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

コミュニケーション力を育み合う ～こども・保護者・職員～

日時：令和5年6月26日（月）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪人間科学大学 准教授 吉池 毅志

内容：「聴いてくれる人が、ひとりいるだけで」信頼関係は構築される。子どもや大人が悩み・弱み・痛み・症状を話せる社会が求められ、地域での多様な支えの必要性を学んだ。精神保健福祉の視点から、それぞれの「生き辛さ」への理解と「盾」（自身を守るシステム）に対して尊重し、承認し合う大切さや、「Iわたしが」から「WEわたしたちが」にしていく考え方を学んだ。

第2回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

AI に負けない力を育む ～保育の見える化(ドキュメンテーション)によるPDCAサイクルの構築～

日時：令和5年7月14日（金）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：お茶の水女子大学 名誉教授 内田 伸子

内容：AI に負けない力を育むためには、主体的な学び(遊び)の環境をつくり、子どもが主役、保育者は賢いわき役となり、「子ども中心の保育」であること。子ども一人ひとりに丁寧に寄り添い、子どもの心の声をしっかりと聴くこと。子どものつまづきを見抜く洞察力、子どもの考えが進むための足場をかけるために「待ち」の姿勢も大切と学んだ。



第3回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

チームメンバーとして大切なこととは？ ～自分なりのリーダーシップを発揮する～

日 時：令和5年8月25日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪総合保育大学 非常勤講師
社会福祉法人檸檬会 副理事長 青木 一永

内 容：マネジメントとは、管理職だけが発揮するものではなく、全員で協力するチームワーク、個々がリーダーシップをとること。『いい園に「なる」のを待つのではなく「する」』という意識の変革が大切であると学んだ。できるところを出し合い、よりよい環境をつくっていくという意識が高まった。

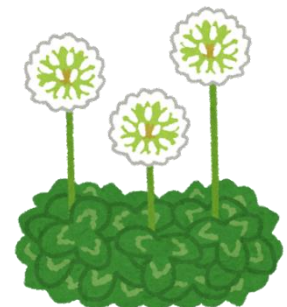
第4回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

保育の質向上と組織マネジメント ～チームで実現する保育実践とミドルリーダーの役割～

日 時：令和5年10月17日（火）14:30～17:00
会 場：オンライン研修（ライブ配信）
講 師：洗足こども短期大学 教授 井上 眞理子

内 容：自園所が組織として機能するために、協働的な学びを可能にする職場の環境づくりについて、保育の質をもたらし「人材」と「組織」の関係を学んだ。リーダーシップのために必要なことから、ミドルリーダーとして自園所での役割について、確認する機会となった。



第1回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

多様なニーズのある子どもの理解と支援について ～ナチュラルサポートをめざして～

日時：令和5年6月2日（金）14:30～17:30

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪大谷大学 教育学部長・教授 小田 浩伸

内容：一人ひとりの個性や特性を理解する、という観点が大切である。支援が必要のない子どもはいない。それぞれの子どものニーズに応じた支援があることが平等である、という考え方の定着を目指す。特別でない「支援教育」ナチュラルサポートについて学んだ。

第2回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

医療的ケア児が仲間と共に育ちあうために ～集団保育と受け入れ体制づくりについて～

日時：令和5年8月3日（木）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市こども青少年局 幼保施策部 保育所運営課
障がい児保育担当 課長代理 杉村 秀子

内容：医療的ケア児を取り巻く現在の状況、受け入れの実際について、具体的な例等を交えた内容。個々の子どもによって医療的ケアの内容、ケア以外の支援の必要性は様々であり、一人ひとりに合わせた対応が求められる。また、子どもの最善の利益のために支援体制づくり（①職員連携②保護者連携③関係機関との連携）の重要性について学んだ。

第3回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

子ども理解を深めよう

日時：令和5年9月8日（金）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪公立大学 准教授 木曽 陽子

内容：「障がいのある子ども」のみならず、「気になる子ども」や全ての子どもたちへの、適切な保育・支援のために、視点を変えて、子どもの困りに気付く。ワークを取り入れながら、保育者が対応に困っている子どもは、子どもが困っていることを理解し関わり、大人が安心・安全な場になることを学んだ。

第4回

対象者：Ⅲ期・Ⅳ期

就学に向けた子どもと保護者へのよりよい関わり
～切れ目のない支援を目指して～

日 時：令和5年11月6日（月）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：関西医科大学総合医療センター
臨床心理士・公認心理師・医学博士 樋口 隆弘

内 容：参加者の交流を実施しながら「保幼こ」と小学校の違いについて知り、よさにも
気付く視点をもつことで、つながりが深まる。個々の特性も大事にしながら、要
支援児と保護者の入学に向けた準備や、支援についての知識、学校へのアプロ
ーチについての情報などを学んだ。

第5回

対象者：Ⅰ期・Ⅱ期

就学前施設における医療的ケア児の受け入れについて

日 時：令和5年12月14日（木）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：武庫川女子大学 准教授 宇野 里沙

内 容：就学前施設における医療的ケア児の受け入れについて、事例を交えて具体的に
学んだ。摂食機能の発達と経管栄養や、子どもの発達段階と咀嚼機能の関係性。
また、二分脊椎症・水頭症の子どもの病態から、受け入れ時の留意点などについ
て学んだ。喀痰吸引、導尿の時に使用する医療用具を、実際に手に取ることがで
き、貴重な機会となった。



第1・2回

対象者：就学前施設教職員

子どもに応じた働きかけとは・・・ ～就学前教育カリキュラム 基礎編～

日 時：令和5年5月25日（木）7月13日（木）15:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当係長

内 容：基礎編として、就学前教育カリキュラムの冊子の構成・内容について知り、事例を通して子どもに応じた働きかけを考えた。0歳児クラスの「探索遊び」と3歳児クラスの「しっぽとり」の事例を基に、発達段階をふまえて子どもの育ちと教育的意図をもった働きかけについて考え、就学前教育カリキュラムの活用方法について学んだ。

第3・4回

対象者：就学前施設教職員

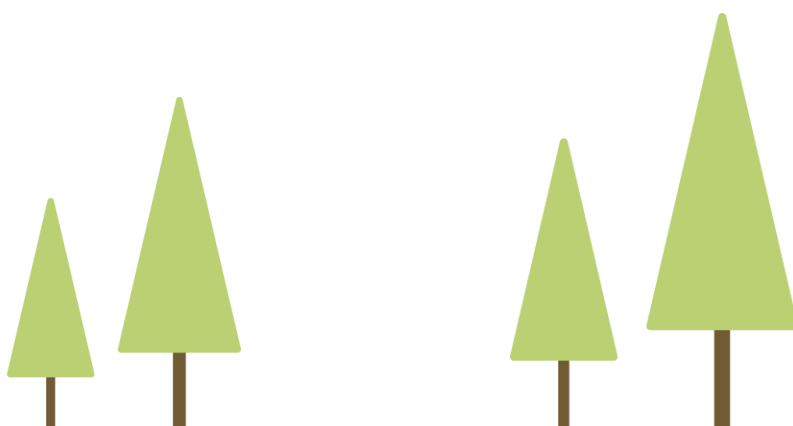
子どもの育ちを発信しましょう ～就学前教育カリキュラム 活用編～

日 時：令和5年8月1日（火）9月5日（火）15:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当係長

内 容：就学前教育カリキュラムの概要版を参考に、「知・徳・体」をバランスよく総合的に育むために、教育的意図をもった働きかけを明確にする。5歳児の事例を基に子どもに育みたいこと、環境づくり、保育者の働きかけのワークを実施。その後、就学前教育カリキュラムを活用し、子どもの育ちを園所内、保護者に発信するシートを作成した。



第1回

対象者：就学前施設施設長・主任級

“共に育ち合う”人材育成を考える ～保育実習指導を含めた人材育成とは～

日 時：令和5年7月4日（火）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：千里金蘭大学 准教授 岸本 みさ子

内 容：養成校で指導される立場から、近年の学生の姿や卒業生の悩みの話を通して、人材育成について学ぶ。実習生や新任保育者の養成は、保育者自身のスキルアップとなり、共に育ち合うことにつながることを学んだ。

第2回

対象者：就学前施設教職員

乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達

日 時：令和5年9月7日（木）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：東京大学大学院 教授 遠藤 利彦

内 容：子どもの発達と教育をめぐる世界的な動向について学び、その中で見直されつつある「乳幼児期」の重要性、「非認知」の大切さについて深く学んだ。「非認知」の発達を促すための大人の役割は「安全な避難場所」であり、アタッチメント（愛着関係）は生涯における発達の重要な鍵となることを学んだ。

第3回

対象者：就学前施設教職員

遊びを中心とした保育 ～遊びをどう理解し援助するか～

日 時：令和5年11月8日（水）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：聖心女子大学 教授 河邊 貴子

内 容：子どもたちに育みたい生きる力は、乳幼児期の「遊び」が礎となる。『「遊び」をどう理解し援助するか』について、写真や資料等を交えながら学んだ。「遊び」と「学び」の関係は、乳幼児期に積み重ねられた経験と知識が、その後の「学び」につながる。「遊びを中心とした保育」とは対話的な保育であり、子どもが主体的に遊ぶことの大切さを学んだ。

第4回

対象者：就学前施設教職員

気になる子どもの理解と望ましい支援のあり方 ～困った子は、実は子どもが困ってる～

日 時：令和5年11月16日（木）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：臨床心理士・精神保健福祉士 井上 序子

内 容：からだの成長とこころの発達より、子どもの成長と発達を学ぶ。発達障がいと愛着障がいの理解と対応より、子どもを理解することの大切さと、気になる子どもへの対応について事例を通して学んだ。

第5回

対象者：就学前施設教職員

絵本から広がる、主体的な遊び

日 時：令和5年12月13日（水）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪芸術大学短期大学部 教授
城東よつばこども園 理事長 瀧 薫

内 容：3冊の絵本を通して、各年齢の育ちも含め、子どもの興味から絵本につながる遊びや、絵本から始まる遊びについて、保育事例を通して学んだ。グループワークでは一つのキーワードから、イメージを広げつなげるワークを実施した。



第1回

対象者：就学前施設施設長

組織マネジメントを考える～リスクマネジメントから働き方まで～

日 時：令和5年6月23日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪教育大学健康安全教育系
教育学部教員育成課程火星教育部門 小崎 恭弘

内 容：保育を取り巻く社会的環境の変化を学び、マネジメントとは何か、組織とは何か、二つの視点でマネジメントを考えた。また、人材育成について、職員一人ひとりの育ち、職員集団・組織としての育ち、未来志向の育ちや保育マネジメントの必要性について学んだ。

第2回

対象者：就学前施設施設長

持続・発展していく園運営を考える

日 時：令和5年8月21日（月）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪大谷大学 特任教授 奥園 みどり

内 容：園所を取り巻く環境（内部、外部）から自園所の強み、弱みを出し合い、園所運営を振り返り、魅力を再確認し、弱みが強みでもあることを学んだ。グループワークの中で、事例案について話し合い、職員の変化に気づき、一人ひとりを尊重し、持続・発展していく園所運営について共有した。

第3回

対象者：就学前施設施設長

様々な職種の役割と理解を踏まえたうえでのマネジメントを考える

日 時：令和6年1月29日（月）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪キリスト教短期大学 学長 山本 淳子

内 容：グループワークを中心に各施設の状況を出し合い共有しながら、施設長としての責務や資質向上を学び、人材育成や管理能力の向上について各施設の課題を出し合いながら学んだ。

第1回

対象者：就学前施設主任級

共同・協同・協働・・・主任の役割

日 時：令和5年8月28日（月）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：常磐会短期大学附属いずみがおか幼稚園 教頭 伊東 桃代

内 容：グループで自園所の特色・いいところや主任の役割、仕事内容などを書き出し共有する。時代の変化の流れを振り返り、「今の先生たちのことを理解してみよう」と歩みよること、新しい感覚と“ふるきよき”を大切にし、互いに寄り添い合える関係づくりを学んだ。

第2回

対象者：就学前施設主任級

「あなたの園所のなぞルールについて、考えてみませんか？」 ～モヤモヤしている「本当の主体性」について、みんなで語り合いましょう～

日 時：令和6年1月16日（火）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪大谷大学 特任教授 永谷 小百合

内 容：指針や要領等から読み解きながら「主体性」について考え、子どもと大人の「共主体の保育」について学んだ。グループワークを通して自園所の「なぞルール」について考え、自園所で行えそうな働き方改革について思いを共有した。



第1回

対象者：就学前施設看護職・養護教諭

大阪市の就学前施設における保健衛生について ～看護職・養護教員の役割を考える～

日 時：令和5年6月20日（火）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪市こども青少年局 幼保施策部 幼保企画課 松林 裕美

内 容：看護業務の実態調査や、経験年数により、実践の様相の変化について知り、役割の必要性について学んだ。また、保育施設等における看護職業務としての留意点、子どもへの健康支援、健康な環境づくり、健康子育てネットワークを学び、グループワークでは、「夏の保育における具体的な取り組みについて」をテーマにそれぞれの施設状況を出し合い共有した。

第2回

対象者：就学前施設看護職・養護教諭

保育施設におけるケガや傷の対応 ～子どものケガやヤケドの湿潤療法～

日 時：令和6年2月15日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：福田診療所 医師 福田 弥一郎

内 容：皮膚の構造から傷の手当、湿潤療法について学んだ。実践では資材を使って傷の手当てを参加者同士行い、また治療材料の紹介や事故予防について学んだ。「毎日の処置そのものが、親の心を癒す」と保護者の気持ちにも寄り添う大切さを学んだ。



第1回

対象者：地域型保育事業施設職員

子どもと「同行する」保育者となるために

日 時：令和5年8月4日（金）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：常磐会短期大学 教授 ト田 真一郎

内 容：不適切保育の報道の中で「子どもを尊重できる保育者集団」のための重要性。また、多様化する社会で子どもの「居場所」を考えたり、“ユマニチュード”の視点から子どもの人権について学んだ。グループワークでは、リスク回避のために必要なことや「子どもを尊重できなくなる」事態は、どのような要因から生み出されるのかについて共有した。

第2回

対象者：地域型保育事業施設職員

小規模・地域型保育事業の課題

日 時：令和5年10月18日（水）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：南住吉つばさ保育園 園長 中山 有理

内 容：小規模保育園は丁寧な保育が実現しやすいことから、年齢ごとの発達過程を理解し、乳児期に大切にしたいこと。また、一人ひとりの子どもの姿を捉え、子ども主体の保育を実現する大切さを学んだ。実践してよかったこと、課題について考える機会となった。

第3回

対象者：地域型保育事業施設職員

3歳児からの保育への連携・接続について

日 時：令和5年12月18日（月）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：東大阪大学・東大阪大学短期大学部 学長・教授 吉岡 真知子

内 容：地域型保育事業の現状について知り、3歳未満児保育（0.1.2歳児保育）の重要性や特徴として、より細やかな配慮、非認知能力を育てる、養護的環境づくりについて学んだ。その子の育ちをしっかりとみること、また保育者の援助や保護者支援についても学んだ。

第1回

対象者：認可外保育施設長

保育の質向上と組織マネジメント ～職員の人材育成と施設長のリーダーシップ～

日 時：令和5年7月18日（火）14:30～17:00
会 場：オンライン研修（ライブ配信）
講 師：洗足こども短期大学 教授 井上 眞理子

内 容：保育の質＝主体性の尊重、実践の中での振り返り、実践を変える学びや、システムを通して「働きたい」と思える職場づくりについて学んだ。リーダーシップになるために必要な、“「人」の能力・資質”×“組織の質”＝パフォーマンス（保育の質）ということについて学んだ。また、「自園・自己の状況」をグループワークで共有しながら、テーマに基づいて話し合った。

第2回

対象者：認可外保育施設職員

子どもと「同行する」保育者となるために

日 時：令和5年9月1日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：常磐会短期大学 教授 ト田 真一郎

内 容：多様化する社会で子どもの「居場所」について考え、「子どもの人権」や「子どもを尊重できる保育者集団」のための重要性について学んだ。グループワークでは、リスク回避のために必要なことや「子どもを尊重できなくなる」事態の要因について話し合い共有した。



第3回

子どもに応じた働きかけとは・・・ ～就学前教育カリキュラムを活用して～

対象者：認可外保育施設職員

日時：令和5年10月26日（木）15:00～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当係長

内容：就学前教育カリキュラムについて、3歳児クラスの「しっぽとり」の事例を基に、発達段階をふまえて子どもの育ちと教育的意図をもった働きかけについて考え、就学前教育カリキュラムの活用方法について学んだ。またワークショップでは、子どもに応じた働きかけについて、ドキュメンテーションを作成した。

第4回

保育を高めるチームづくり ～いま何が必要か～

対象者：認可外保育施設職員

日時：令和6年1月15日（月）15:00～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪総合保育大学 非常勤講師
社会福祉法人檸檬会 副理事長 青木 一永

内容：働きがいの3要素のひとつ「仲間との連帯感」のチームづくりに焦点をあて、園をつくる文化（組織文化）、チームづくりの第一歩（チームとグループの違い）、ネガティブフィードバック（耳の痛いことを伝える）、リーダーシップとアクションプランについて学んだ。

